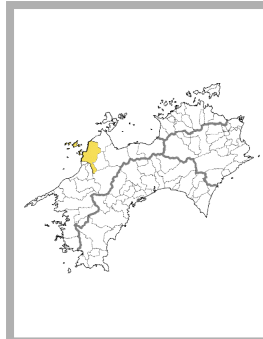


松山市(愛媛県):梅本駅交通結節点の整備/IC い〜カード

民間事業者が中心となった総合的な交通体系の確立

人口	514,937 人	モード	乗継改善・ 複数モード
面積	428.89 km ²	法令	—
人口 密度	1200.62 人/km ²	運営 主体	伊予鉄道



■ 取組の背景

地域と交通の状況

- 松山市では、モータリゼーションの進展により、郊外電車・市内電車利用者数はいずれも大幅に減少しており、昭和 50 年の約半分程度まで減少している。
- 伊予鉄道は「公共交通再生」と「地域活性化」を目指して平成 13 年より「サービス向上宣言」として、市駅前再開発事業・坊っちゃん列車営業運行などの取組を行い、平成 16 年からは「いきいき交通まちづくり宣言」として、引き続き取り組んでいる。
- 梅本駅は平成 17 年度の四国がんセンター移転(駅から病院の入口まで約 500m、徒歩で 5 分)に伴い、駅利用者の増加が見込まれ、とくに高齢者や障害者の割合は高いものと考えられることから、駅前広場および周辺道路の整備による四国がんセンターへのアクセス向上(バリアフリー化)が必要となった。

【公共交通の利用者減少】

活用メニュー(制度・協議会等)

- 平成 17 年、松山市は国からオムニバスタウン計画の地域指定を受けた。

【オムニバスタウン整備費総合事業】

■ 実現したサービス

サービス内容

- 郊外に結節点機能を強化した交通拠点駅(郊外電車駅・バスターミナル)を整備しそこを支点とするバス路線を運行することで、電車・バスの有機的な結合を図った。

〈松山市の整備内容〉

- 路線バスが回転可能なロータリー
- 四国がんセンターへのバリアフリー動線の確保
- 乗降場の整備 路線バス・タクシー・自家用車 各 2 台
- 駐輪場の整備(160 台)

〈伊予鉄道の整備内容〉

- 身障者用乗降場(1 台)
- タクシープール(3 台)
- 駅舎、ホーム等の駅施設

【フィーダーバス】

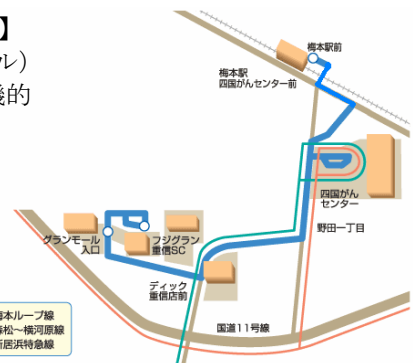


図. 梅本駅交通結節点の整備

出典：松山市資料

【カードシステム】

- 市内の全ての路線バス、路面電車、郊外電車(JRを除く)、タクシーに IC カードを導入した。
- 「地域カード」を合言葉に、交通系サービスを軸として、地域のショッピング・グルメ・レジャーなどでの電子マネーとしての利用、さらには大手コンビニチェーンとの提携や地元スポーツチームとの提携などの地域展開を図っている。なお、伊予鉄道では「いきいき交通まちづくり宣言」として、上記を含めて、「交通拠点構想の推進と路線再編」「交通 IT 化の推進」「行政のまちづくりとの連携」の取組を推進している。



図. IC い〜カード

出典：伊予鉄道パンフレット

■ 効果と負担

効果【効果:利用者数の維持・増加】

- 「梅本駅交通結節点の整備」「ICい〜カード」をはじめとする伊予鉄道の総合的な取組（「サービス向上宣言」「いきいき交通まちづくり宣言」）及び松山市との連携施策効果により、バス乗客数が増加、郊外電車・路面電車乗客数が下げ止まりとなった。

負担【市町村負担】

- 梅本駅交通結節点の整備に対して
市負担分:45%(2,475万円)
国負担分:55%(3,025万円)

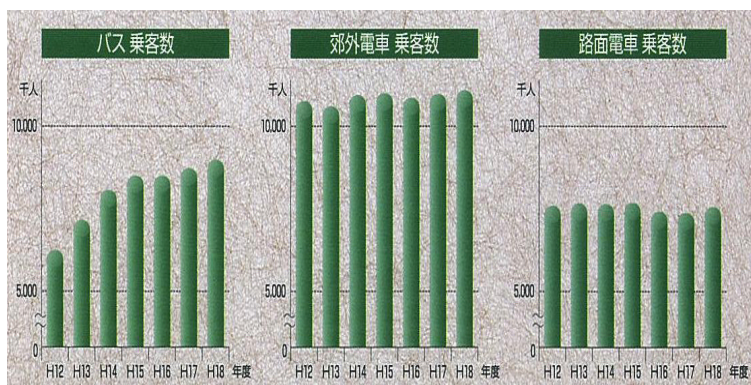


図. バス・郊外電車・路面電車の乗客数

出典：伊予鉄道パンフレット

■ プロセスと調整

アンケートの実施

- 松山市は、オムニバスタウン計画策定にあたり、WEB アンケートと利用者アンケート(バスの中で調査票を配布)により現状を把握した。700程度の回収数があり、それをもとに施策を検討した。
- 伊予鉄道も別途アンケート実施、駅ごとの利用者数把握を行って、緻密な現状分析を踏まえて施策を検討している。また、これらの情報は行政と自治体とである程度共有され、効率的な現状把握が行われた。
- また、松山市では、日常的に「わくわくメール」として住民からの意見を募集している。

【プロセス:現状把握】

との調整

- 伊予鉄道が「サービス向上宣言」「いきいき交通まちづくり宣言」プロジェクトとして、交通 IT の推進・交通拠点駅構想の推進と路線再編などを行っていた。松山市での総合交通課*の設置・オムニバスタウン指定に伴い、松山市と伊予鉄道が協力して、事業の推進にあたった。
※さらなる市民サービスの向上・組織能力を発揮しやすい体制となるように、部局横断的に、交通に係る事務を集約した「総合計画課」を都市整備部に整備した。
- 松山市は事業者がひとつであり、複数事業者間の調整が必要ないことが、事業がスムーズに進んだ原因のひとつだと考えられる。

【調整:対事業者】

■ 創意工夫・知見・教訓

市の組織改革に伴う総合交通課の設置

- 松山市では、市の組織改革に伴い、総合交通課を設置した。それにより、鉄道・バスなどを含めた横断的・体系的なプロジェクトを進めていた伊予鉄道との意見交換、協力がスムーズに行われるようになった。

【知見:行政の取組】

民間主導のプロジェクト推進

- 松山市では、民間である伊予鉄道が「公共交通再生」と「地域活性化」を目指して、市駅前再開発事業・坊っちゃん列車の営業運行など、総合的な取組を行っていた。オムニバスタウン指定などを契機として、市が伊予鉄道と連携することで、民間のプロジェクトがよりスムーズに推進された。特に、梅本駅は比較のお金をかけずに大きな効果を挙げることができた事例である。
- 現在では行政のまちづくりにおいても、連携が進んでいる。「坂の上の雲」フィールドミュージアム構想を掲げて、関連史跡・施設をネットワーク化した交通サービスを展開している。

【知見:主要なプレーヤーの存在】

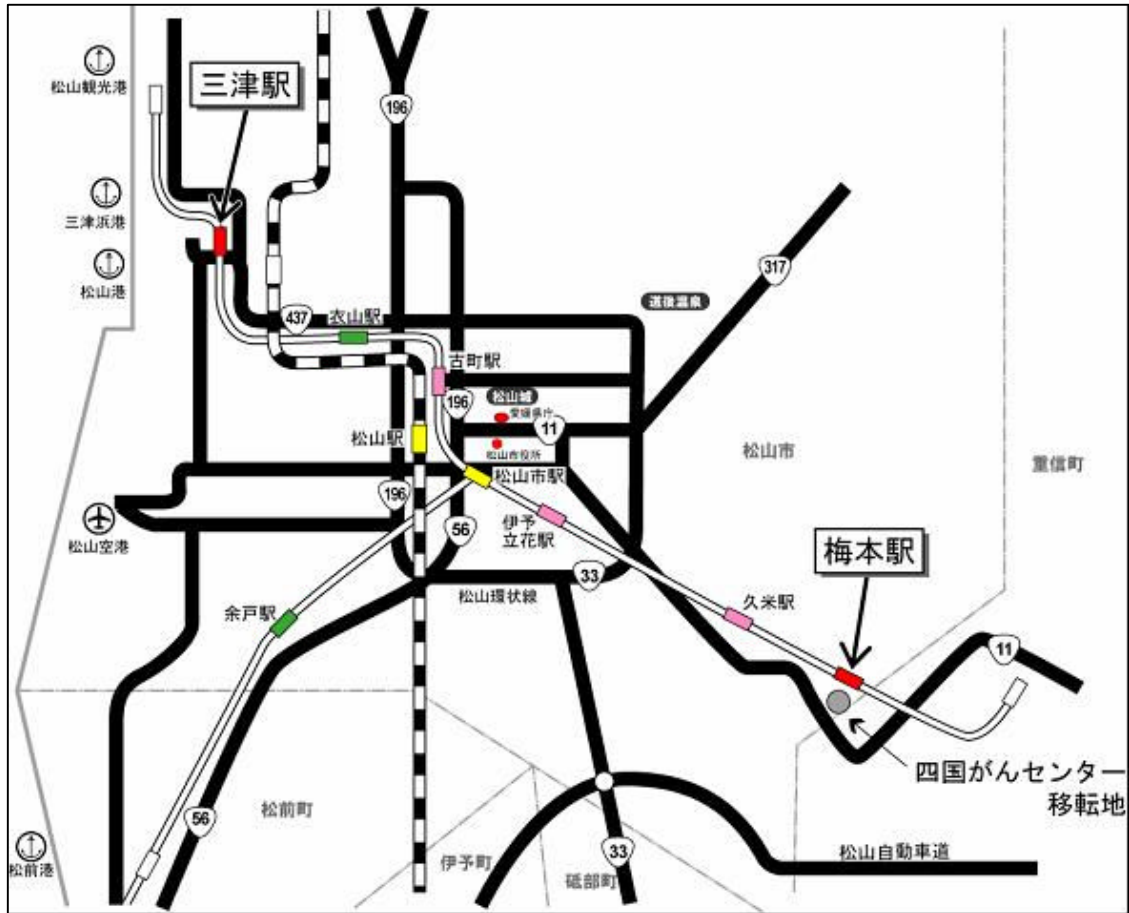
■ 連絡先、参考 URL 等

連絡先：松山市都市整備部総合交通課 電話 089-948-6863
伊予鉄道運輸事業本部政策室 電話 089-948-3222

参考 URL：松山市オムニバスタウン計画 http://www.city.matsuyama.ehime.jp/koutuu/1179135_1005.html
伊予鉄道 <http://www.iyotetsu.co.jp/index.php>

■ 資料編

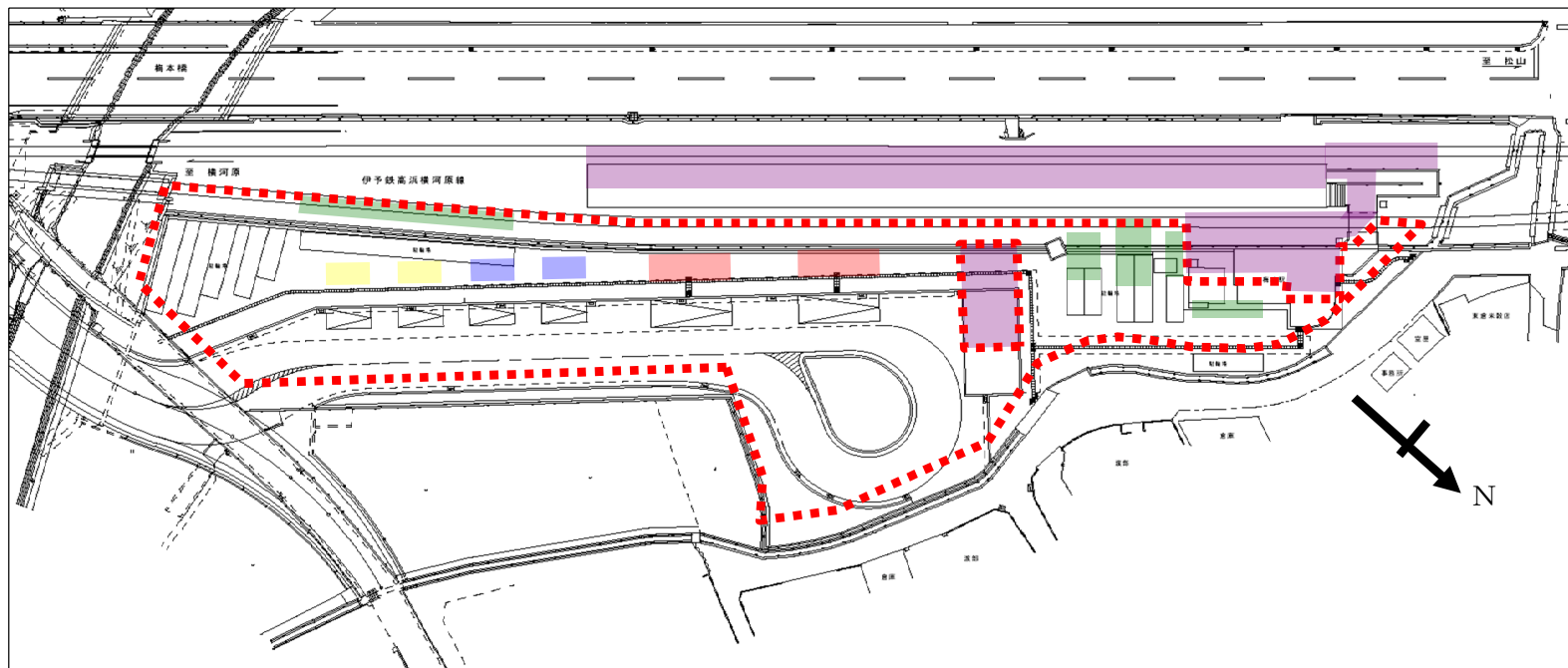
全体構想として、伊予鉄道三津駅、梅本駅、古町駅、立花駅、久米駅、衣山駅、余戸駅の7駅を整備箇所として考えている。



- 整備計画策定箇所(H15検討)
- 整備計画策定箇所(今後検討)
- 整備構想策定箇所

図. 交通結節整備計画対象駅

出典：松山市資料



- … 駅前広場区域
- … 路線バス乗降場
- … タクシー乗降場
- … 自家用車乗降場
- … 駐輪場
- … 伊予鉄道整備箇所

図. 梅本駅平面図

出典：松山市資料